

御座 一、三〇〇
 御座 二、三〇〇
 御座 三、三〇〇
 御座 四、三〇〇
 御座 五、三〇〇
 御座 六、三〇〇
 御座 七、三〇〇
 御座 八、三〇〇
 御座 九、三〇〇
 御座 十、三〇〇

内郷村報の 六大使命

- 一、政黨政派を超越して、村方充實主義を標榜す。
- 二、村内公私各機關の活動状況を報導し併せて其協調を計り、總親和總努力の實現を期す。
- 三、本村共済事業の徹底を期す。
- 四、村内の善事美行を表彰し、且之を獎勵す。
- 五、本村と本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
- 六、尙餘力を以て、國民善導に當る。

内郷村報

帝國議會一瞥

議員の動物的奇聲

大内民惠

記者は所用あつて、先月下旬から今月上旬にかけて東京に暮した。而して三日には所謂舉國一致内閣の齋藤首相が、施政方針の演説をやるといふので、久しぶりで傍聴をして見やうと、降りしきる雨をついて議事堂に馳せ参じたのは、同日午前九時半頃であつた既に多数の人々が押しかけて居て、余が受け付けられた番號は丁度三百五十で、今しも巡査によつて、受附順に整列させられ、十人宛一くざりとして、入場させられた。ある處であつた。待つ事驚く勿れ

一 時間にして漸く順番來り、入口をくぐれば、約十人位の手によつて、嚴重なる服装検査と携帶品調査が行はれ、外套ナイフの如きは勿論、新聞雜誌手

帖鉛筆萬年筆眼鏡のサツクの果まで預かられ、其料金を徴せられた。傍聴席に通つて見れば、既

に空席なく、辛うじて東北隅なる最下の階段に腰を下した。時正に十一時半。開會迄には尙一時間半。やれ

と心中密かに嘆ぜざるを得なかつた。要所々々には守衛氏が立つて居て、さ

やぎをさへも許さぬといふ監視ぶりである。狭い傍聴人扣所はあるが、其處へいつて居れば、既得の席を失ふ心配があるので、一同

は息を殺して沈黙を守り、靜肅を余儀なくされて居る記者には経験はないが

刑務所入りはこんなものではないかなどとつく

ゝ考へさせられた。何は兎もあれ、代議士紹介の入場券を所持する、善良なる

國民の傍聴者に對して、かうした待遇をするといふ事は、事故防止上已むを得ざる手段かも知れぬが、結局紹介者たる代議士を侮辱するもので、又一面如何に代議士が信用なきかを語るものといふべきであるなどと、種々の不平も起つたが、因人同様の我々には致し方なく、何とも所作なきに、天井高くかけつらねてある歴代議長の肖像などをながめて、獨り心中に、其人物其時代なりを追想したり批判したりして居るうちに、何時しか眠りに落ちて仕舞つた。かくてけた、ましく響き渡る振鈴に目を醒ませば、いよいよ開會時間到来し、各議員各

大 臣政府委員議長書記官長速記者と、ぞろぞろ入場着席する。記者は之を眼下に睥睨し、最初憲政の常道を高唱して、各我黨内閣の出現を期待したるも、信用失墜の結果、其可能性なきものと斷念し、齋藤子に大命降下するや、進んで之に春情を寄せ

秋 波をおくつて、吳越手一舟に乗り込み、舟に縁因深き海軍大將の下に、其閣員となつた二大政黨幹部處

の面、それにつらなる諸公連の首を一々實見した時に、蘇峯學人の所謂善内閣なる哉の感なき能はずであつた。一方四百議員の顔は、我席からは見る由もないが、点々、黒、白、禿、三様の頭顱、抑々其腦中には何を描く政權利權を得んが爲には、殆んど此等の全部が、國法違反迄も敢てして、此處に其席を得た不心得者、曾て記者が議會の騷擾を、動物園の檻を一時に開放したるが如しと、評した事なども思出され、選良だとか、紳士だとかなどは失禮乍らどうしても考へられず

團 栗をばらまいた野邊か海栗を散布した、海邊でもあるかの様にしか思はれなかつた。かくて秋田議長開會を宣し、諸般の報告あつた後、「近時輿論の趨向に鑑み、特に議會の振肅をはかりたいと思ひます、特に諸君の御援助を求めます」と議會淨化の意を示し、齋藤首相をさしまねけば

齋 藤首相をさしまねけば閣の施政方針及外相として外交方針を述べ、次に高橋藏相の財政演説あり、何れもよく聲は通つたが眞に朗讀演説、荒木陸相は、上

海事件の經過、滿洲方面の情況、不祥事件の説明及留任の理由を述べ、岡田海相も亦上海及滿洲に於ける海軍に關しての情況並不祥事件に對する主張を語り、而して通告順により、施政方針の演説に對する

質 疑に入り、二時四十分より山崎達之輔松岡洋右杉山元治郎の三君、順次登壇して辯じ立つれば、それに對してそれ、閣員から型ばかりの簡單な答辯があつた。其詳細は各新聞や速記録に掲載されてあるが、之を略する事とするが、其

論 議は何れも精彩を缺き質疑演説などと云ふが之亦大風呂敷を擡げて、自家廣告に駄辯を弄する芝居としか思はれなかつた。之に對する政府側の答辯にした處が、全くいい加減な無責任極まるものであると思はれた。それから荒木陸相の留任の辯に對する院内の空氣は、實に嫌忌すべきもので、敢て男らしく野次もどなく、グフン／＼ゴホン／＼ウホン／＼クウクウと一種名状すべからざる野卑陋劣極まる醜聲奇聲を發したには、實際あきれざるを得ない

(以下二面)

すことになつてゐる。道を學ぶの要は基本を知るにあり本まは何ぞ、常人職分の當に屬すべき所の事たり。伊藤東涯

で富家全町の六割は其人の所有だ、三ヶ所許りの視察を了へ尙私に族儀の見學も兼ねるので一同と別、孤獨の旅行をなす。

支那皿の繪は牡丹や目刺焼、飛行機に乗るべく日傘た、みけり、綾陰に眠る、高木、撫山

本紙發行は大内一家の事業にして、其の社誌に手懸に對する建言を兼ねるものなり。

(一面よりつづく)
 かつた。動物園の動物を一齊に箱口したらば、定めしかうした醜奇な聲を發するのではないかと、又しても動物園を追想されざるを得なかつた。かくて記者はかうした動物園が刑務所の様な處には、ごうしても抱出來ず、朴春翠君の風呂敷はとうとう拜見否拜聽せず退場したのであつた。以上瞥見した處で我輩の感想はどうかといふに、如何に

政 界の革新、議會の淨化などを叫んだ處で、病膏肓に入り、前科者である此等政黨屋は、之を轉迷開悟、變正遷善させる事は、到底不能の事と思ふ。之が對策は、記者が發表した選舉革新案の精神に基き現在の如く選舉費用を使ふ事なくして、あらゆる各方面から人材を選出する方法を標準として、選舉法を改正する事である。之と同時に法其物が如何に立派でも、之を運用する

選 民の品行行動が、どうあるべきかと、第一の問題なるが故に、勢ひ國民教育の徹底、教育制度の改革を叫びざるを得なくなつて來るのである。我田引水

か、將た賣藥の廣告的ではあるが、結局は我大内案九主義に則れる方法に據らざるべからざるを、痛切に感じさせられた事であつた。(六月十日)

渡 滿 せ る 夫 の 近 況

警炭では高坂坑縮少のため徳田福次郎以下五十一家族が本村を引上げ渡滿の雄濱崎務課長が外務省陸軍省拓務省等各關係官廳を訪問し集團的渡滿の了解を得たので去る去月九日一行百五十名は奉天に向つて出發したが到着後日ならずして敦圖線の工事に着手した通知があつたので會社側は云ふ迄もなく一般村民は彼等渡滿者のため眞に同慶に堪えない次第である。

過般徳田氏より濱崎課長宛左の如き書翰があつた。早いもので私共一同が皆様に別れを告げてから最早や半月以上になつてしまひました。私共は旅といはず高坂を故郷と云ひます故郷を離る、時は一方ならぬ御款待に預りました。又御苦勞もいとない態々綴りまで御見送り下さいまして眞に光榮の至りに存じます。私共は皆様の御好意に對しまして胸中深く決心して立つた次第で御座います。

高坂では課長様を實の親の様に御慕ひして居りましたそれに拘はらず一朝一夕に課長様の膝元を離れ遠く滿地を目標に立

つ小生及び一般の心持はさうでしようか、人の子女が大きな志を立て、親の傍を遠く離れるのと同じでした。課長様課長様今日迄私共を指導養成して下さいました課長様、實に鴻恩は山よりも高く海よりも深く私共一生を通じて忘れることは出来ません。有難う御座います。課長様私共の前途に就きもつともつ祈つて下さいませ。滿洲といふ所に實に廣い所で御座います此處へ来ただけでも何だか成功した様な氣が致します。十三日奉天に着きましたから一同はお國に向つて萬歳を唱へました。皆元氣で先づ旅館に落ちつきました。さうして奉天を中心に就業口を探す心算なのです。内地に居た時はさうも思はなかつたのですがこちらはまだ渾沌として時期尚早人心又胸々としてあります。交渉の結果日ならずして軍部の紹介で敦圖線の工事に着手する事になりました。匪賊は他迄此の工事の邪魔を致しますが此線は〇〇大工事大事ださうです。私共は國家の爲にさうしても切り抜いてやつて見せます。これからは生活も幾分樂になる事です。これも一重に課長様の御奮闘下さつた御蔭だに感謝致します。

課長様に申し上げる事は山々ありますが惡筆故これにて失禮致します御笑下さいませ。さようなら。

警炭では婦人の坑内勞働禁止實施を好機として、副業教育によつて、幾分でも家計の補足をほかる様にも、小鍛冶さんと子女史を講師として、集會所に於て、ミシンの無料講習所を開設したるに、三十余名の入室者あり、追つて大内七年會長及國分鼓月氏を講師とし

り警炭集會所を借り受け、第二回天人會を開催した生憎會社側會員に差問へ多くは遺憾であつた。分けて辯士二名中隅田氏が社用上京されて講演出來なかつたのは期待されてゐただけに却て失望を深からしめた。晩餐後梅森氏の教育觀を題し講演があつてから内郷村報批判會に移つたが傾聴すべき質問があり、本村報のため参考とすべきものが多々あつた。最後の打合せ會では次回から會費三十錢とし出席の有無に不拘會員は毎月金十錢納入すること、但しこれは出席者の三十錢に含まること、尙希望者あらば入會せしむること、晩餐は時節柄節約して二十錢内外とし變つた料理を取り入れること等に決し、次回辯士は隅田氏の外に抽籤によつて、小島良利氏、更に補缺として長堀莊三氏に決定して月明の中を九時散會した。



所習講ンシミ炭警

て、修養講話並に生花教授をも開始する由、時機を得たる企であるといふべきである。因に同所では、従業員に限り材料持參者には、當分無料で其調製に應ずる由である。

天 人 會

去る十八日幸ひ土曜日に當る、以て、午後五時半よ

- 本紙贊助金寄贈芳名
- 金參圓也 味方利平
 - 金拾圓也 河合 潔
 - 金壹圓五拾錢也 松本 大
- 本紙購讀者芳名
- 自七年六月一年間 菊野長敏
 - 崎田直昌

矢野 恒太序 大内民惠著

教育制度改革概論

(四六版二二頁 定價五十錢 郵税六錢)

總 親 和 總 努 力

磐 炭 大 運 動 會

行き詰れる現代の教育制度を解して、學理と實際と、歴史と實驗とから新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士の賛同校擧に違あらず。されど未だ一人の抗議者も現はれず。

觀衆凡そ一萬實に山を擧げて總親和總努力振りを發揮した。

に先づ形に於て斷然頭角を顯はした磐炭陸上競技部では、愈々東北の雄、全日本實業團チームとしての覇

日 本 評 論 社

東京九ノ内昭和ビル

内 郷 村 報 社

の答辭ありて宴を張り、主客感激の内に散會した。凱旋兵の氏名は左の通りであ

石城版

第三號

本誌は六大使命に準據し郡内の社会事業並教化事業に關する記事論説を採録す

縣下中等教員に望む

大内民惠

縣 下に於ける縣公立中學校女學校實業學校所謂中等學校なるものは約四十にして、其生徒は一萬七千を算し、其教職員は八百五十と稱せられる。記者は從來著書に新聞に雜誌に、教育家の修養を説き、其無責任を論ずる事幾度なりしを知らざるも、糖釘的であり暖簾に腕押し的の感なき態はずであつた。されど憂國の至情黙止し難く、又々懲り性もなく、茲に一萬七千の父兄の一人として、將た我私設視學として、縣下八百五十名の教職員諸子に向つて

大内民惠 だ、村の青年でもあるのかいと聞いたら、イ、エナニ 學校の先生方ですよ、今日は何かの慰勞會なのですよ、記者はホウの中學校の先生かとい頭をひねれば、彼女はさうですと、近頃の先生方は凄いで、よと、頗る無造作に説明するのであつた。越えて數日某店頭で二三の人々が、近頃の不景氣には本當に困つた、たゞ豪勢なのは學校の先生方ばかりで、花柳街の如きは、中等學校の先生によつて賑はされて居るさうだ、變れば變るものだと、話し合つて居るのを聞かされた。其後以上の話をさる人にした處が、イヤそれは實際ですよ、某バアの如きは中學校の先生方を常得意として居るさうです、それに近頃中學生等が、先生方の醉歩躑躅醜態を演じつゝ、道行く光景を見せつけられ

て、あきれて居つたといふ事ですよ云々云ふ事を聞かされた。記者はいよいよ失望して、尙其學校に近づきて、親しく上級學校の入學率を調査したるに、實に問題にならないものであつて、教職員が如何に緊張を欠き其職責を重んぜざるかを、こゝに確實に立證する事が出来たのである。それは勿論教員中にも、立派な人格者もあり、眞の教育者もある事は事實であるが、例へば野球のチームにしても、九人のメンバーがキャプテンの統制下に、一身体となつて、眞剣に活躍する事によつて始めて勝利を期するが如くに、校長と職員全体が、一致精勵する事によつて、教育の効果を擧げ得るものである。之によつて此學校は、多數の不眞面目な教員があり、校長亦之を感化指導する徳望能力なき事を證するものにはあらざるかを疑はざるを得ないのである。以上は唯此一地方の一中學校の例に過ぎないのであるが、廣く縣下一般の中等學校を見渡すに、五十歩百歩之と逡巡なきもののみにはあらざるかと思はれる。昨今さる中學に二十數人の

窃 盜 出し、教諭の一子も之に参加して居つたとの事、此亦吾人の觀察を裏書きするに餘りあるものである。 特 に又注目すべきは、此等中等學校を卒業して其儘家庭の人となる子弟の成績である。寧ろ中等教育などは受けさせなかつた方がよかつた、嘆聲をもらす父兄が決して少くない現象を呈して居る。又近年定員の生徒を得る事が出来ないうで、其募集に全力をあげて狂奔して居る學校も少くない様であるが、それは勿論財界の不況も、其一因をなすものなれども 桃 李の言はず、下自ら蹊を成す、其成績さへ優秀であつたならば、他府縣からでも入學者が自然に蟄集する事請合である。本縣では其と反對に、他府縣の優秀校に其子弟をおくる父兄が、漸次増加しつつあるは、抑々何を物語るものであるか、縣下四十の學校中唯の一枚でも、優秀校として他府縣より生徒を引きつけるものなきは、縣下中等教育界の一大 耻 辱といふべきである。不心得なる教員中には往々教員も人間だ、酒を飲

み女に戯れるが何だなどと、いふものがあるが、彼の伊藤博文のやうに「高樓傾け盡す三杯の酒」醉ふては枕す窃窳美人の膝」などと吟する一面には、「日東誰か帝威をして盛ならしめん」醒めては握る廟堂天下の權」の意氣を以て實際仕事をやつて居るのである。先生方もかくあるならば聊か頼もしいのであるが、生徒の御機嫌をとりつゝ、學科の切賣りが其日課であつて我 教 子の前途將來はさうあるべきかなと、責任觀念を以て、其職務に當面する者幾人かあるのである。所謂沈香を焚かざるは勿論、屁ばかりひつて居る教員が多いと思ふ。札幌農學校の創立校長 ラークは、學生に禁酒をすゝめんとするや、先づ遙々母國より携帶し來れる高價なる葡萄酒全部を捨て、かゝり リストは死期せまれるを知つた時に、自ら弟子十二使徒の洗足を行つて奉仕の精神を教へた。 吉 田松蔭は、諸生と寢食を共にし、實踐躬行、天下を發奮し、四夷を震動 (以下四面)

杉田版

第三號

本報の六大使命に準據し故郷安達杉田村の記

事論説を採録す

草野式全身強健術

附録 圖解並實感録 定價 特價金二十錢

東京南門外藤原院 創始者 草野三千雄 著

(三面よりつづく)

するは即ち長州にあり、其長州の顯はる、は松下邑にあり、而して松下村の興起は其責一に此塾に係るものなりと豪語して居るではないか。「君の爲散れと教へておのれまつ嵐に向ふ櫻井の里」は

楠 公の心事を歌つたものである。畏くも亦治大帝は、教育勅語に朕爾臣民ト俱ニ拳々服膺シテ成其徳ヲ一ニセンコトヲ庶幾フと仰せられたではないか。世の師父たるものは、我子弟の教育を云々するに先き立つて、先づ自らを顧むべきである。然るに何事ぞ、

餓 辱逐日天下に充滿せんとする此空前の不況時に當つて、物價低廉の爲に生ずる餘裕を悪用して、巷間批判の的となるが如きは實に沙汰の限りといふべきである。勿論職員中には批難なき人々の少なからざる事は前述の通りであるが、此等の人々と雖も、連帶責任を有する其同僚を

善 導薫化し得ざる不徳の罪は決して軽からずと思はれる。或論者は教員を批判し、其不心得を指摘し其反省を促すは可なるも、

之を公表する事は教育上考慮すべきであるといふ。それは慥かに一面の眞理である。されど少くも現今に於ては、生徒は既に先生に服せず、父兄亦教員を信頼せざる状態にあるのである。之は一般世間周知の事である。問題は八百五十の教員諸子が大に覺醒して、生徒にも父兄にも、心服され信頼される丈の修養を積み、其重任を果たしごん／＼立派な成績を挙げ他府縣からまでも、續々入學者が集るといふ位迄に、漕ぎつけてもらひたいのである。此に於て始めて、我教員諸子に對して

神 聖にして犯すべからざるの崇敬心も起り、記者の如きも、直ちに禿筆を捨て、其後塵を拜するに躊躇する者ではない。我教員諸子にして、教員も人間なり、職業なり、我受持學科の切賣りをすれば事足るのである。酒色によつて浩然の氣を養ふに何の不可あらんと嘯き、唾棄すべき手段方法によつて其地位を維持し、立身を謀りつゝ、ある者ならば、速かに他に轉職すべき事を勧告する我等一萬七千の父兄は、其子弟の將來を、一家

の浮沈にかゝる一大問題として、精神的にも物質的にも、日夜苦心し修養して、就學させて居るのである。近頃それにも堪へず、半途退學者を出しつゝある現状を

牢 記し反省してもらひたいのである。

以上縷述する處を約言すれば、我等は諸子に對して中學校も女學校も將た實業學校も、現在の成績を以てしては、決して満足しないのである。希くは緊張一番各自其學校の使命を体得實現して、お蔭様で立派に教育して戴いた、これで老後の安心も出来、君國のお役にも立たせる事が出来る、ほんとうに有り難う御座いました、先生方は眞に我等百五十萬縣民の儀表であり恩人である諸子の足下に跪座して、心から三拜九拜する域に迄精勵してもらふ事を熱望するのである。尙記者は拙著教育制度改革概論の第一編には我國教育の現状第二編には我

理 想の大意を述べたのである。就いて閲讀せられ、以上の愚見と併せて、検討熟慮忌憚なき批教を垂れられん事を、併せ懇望して欄筆する。尙一言附加するが、

記者は又 師範教育の不徹底の結果小學教員の素質漸次低下し、其影響する處甚大な事を痛感するものなるが

磐中保護者會 評議員會と

縣立磐城中學校に於ては橋本校長就任以來、銳意教育の刷新徹底を期し、殊に家庭との連絡につきては、格段の努力を致し、顯著な成績を擧げつゝあるが、五月二十六日午前十時より同校に於て第二回生徒保護者會評議員會を開催し、各種重要事項協議を遂げ、且校長より篤志獎學會員募集に關する説明あり、一同之を賛し、それ／＼地元にて協議の上、實行にとりかゝる事を約して散會し、引きつゞき同日午後母姊會を開き、援業參觀、校長の講話、主任との懇談等あつた而して保護者會々計六年度決算は收入千二百八十八圓三十九錢、支出九百九十七圓六十八錢、差引殘金三十圓七十一錢で、之を次年度に繰越し、七年度の豫算は、收支同額にて一千二百九十七圓二十一錢である。次に評

故に、我男女兩師範教員諸子に對しても、本文の一瞥を乞ひ、其反省を求むるものである。(六月二十日稿)

農繁期託兒所

本縣社會課に於ては、特に農繁期託兒所の開催を奨勵しつゝあるが、本年本郡に於て其開設を見たは、泉村一ヶ所、下小川一ヶ所、植田町四ヶ所、平窪村三ヶ所の九ヶ所にして、期間は六六月十二日より同二十四五日に到る二週間内外で、多くは小學校及寺院等を使用し、其收容兒童總數は、三百五十人に達した。

- 議員氏名は左の通りである
- △勿來方部 赤津一 宮川富重
 - △植田方部 大平菊次郎 小宅嘉久治
 - △小名濱方部 小野晋平 高木保 遠藤俊一郎
 - △湯本方部 篠原保治 菅波駒之助
 - △四倉方部 杉原新伍 田仲岩次郎
 - △平窪方部 田久彌七 鈴木應善
 - △好間方部 緒形清治 小田吉次
 - △高橋武雄
 - △夏井方部 鈴木藤治
 - △松崎金松
 - △内郷方部 菅原清次郎
 - △佐藤一 長谷川憲次郎
 - △菅波忠治
 - △大内民恵
 - △平方部 猪狩庄平 酒井清 中島十藏 津田達造 柴田徳二。

東京市外大崎町居木橋百三十番地
發行所 草野式全身強健術普及會
福島縣石城郡内郷村
取次所 内郷村報社

然るに同君は、此二つを見事にかり得て、悠々今日ある事は、實に偉とすべしである。君はあまり振は

地位を得て、活動のスタートをきり、鋭敏果斷加ふるに先見の明ある君は、縦横に其腕腕を振ふ事こゝ

いふ風で、幼時乳兒に行つて居つた田舎の親の法事を爲す爲に、夫妻揃ふて行つて、盛大な共進までしてやる

東京南胃腸病院 副院長醫學博士 桑野佐源太先生序並校閱 創始者草野三千雄著
草野式全身強健術
附錄 圖解並實感錄 定價 特價金二十錢

杉田版

第三號
本報の六大使命
に準據し故郷安
達郡杉田村の記
事論説を採録す

四十年前の三少年

大内民惠

回顧すれば、日清戦役の直前明治二十六年頃、我全國民の血を湧した二大事件は、福島少佐の西比利亞單騎旅行と、郡司大尉の千島短艇渡航とであつた。記者は其時十六歳、十五歳の安齋直江、十四歳の遠藤二郎の兩君と共に

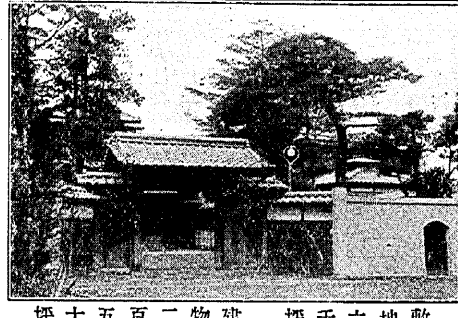


内大・藤遠・齋安

郡 司大尉の一行に加はり我北門鎖鑰の守衛者となり、開拓者とならんと欲して、丁度其年の今頃、三人相携へて密かに家を出て安齋君の持出したる六十五金を旅費として仙臺に到つて其準備中、追手としてひかひたる安齋君の父君と遠藤君の令兄とに發見され、警察の説諭や保護を煩はし

桑野博士曰く、同氏の方法は毎日朝晩起床と就床時に唯の五分間だけ、半畳にあまる唯一つの寢床を利用すればよい。運動は頗る平易で、而かも疲たず、で樂々として出来るが、殊に内臓諸機關の機能増進に力を入れて居る所が特徴とも言ひ得る云々(序文の一節)

然るに同君は、此二つを見事に勝ち得て、悠々今日ある事は、實に偉とすべきである。君はあまり振はざる成績を以て、二本松高小を出でて略十年間は、或はさすらひの旅に出たり、或は穀屋の小僧となつたり、或は貿易商の番頭となつたりといふ様な生活を続け、人をしてどうなるものかと



地敷 六千坪 建齋 二百五十坪

思はしめたのであつたが、念發起、一度覺醒するや、優秀なる青年學徒に變り、東京に出て、人力車夫となつて、活資を得つゝ、苦學生活に入るに及んで父君は初めて其爲すあるを看破して學費を出す事となり、明治法律に在學三年、優等の成績を以て之を終へ及第し、こゝに社會的

大 盡の家とたつぬれば、立ちどころに分るのである。縣下は勿論中央の政界實業界の巨頭にして、君が門下に叩頭して流資を仰ぐ者の少なからざるに徴しても、其財力の如何に大なるかを推知する事が出来ると同時に、此方面に於ては恐らく本縣出身者中、君に比肩すべき者はあるまいと思はれる。普通世間に於て一代に金をためる様な人には必ず何處かきたないつめたい處があるものであるが同君に於ては、毫もそうした點は認められざるのみか夫妻揃ふて

親 戚故舊に厚く、實に到れり盡せりである。其昔少しでも世話になつたとか、何等かの關係でもあつたといふ人に對しては、何處までも面倒を見てやるといふ風で、幼時乳兒に行つて居つた田舎の親の法事をする爲に、盛大な供養までもしてやるといふ徹底振りである。又國家の爲とあつて、目下滿洲に於て一大活躍をなしつつある有名な某氏に、ポンと一萬圓を投げ出して、其を援助して居るといふ

愛 國任侠の一面もあるのである。要するに君は杉田の生んだ一大傑物で、尙前途を有する者、其餘力を以て大は國家の爲に、小は我杉田の爲に、大に貢獻せらるゝ處あらん事を熱望する次第である。

遠藤二郎君
上の二令嬢は既に他に嫁し、殘る四男四女の息

海邊松 遠藤二郎 本年秋所會始録進之歌依點者之選於所前打講相成俱也 大正七年一月十八日 秋所會始録 秋所會始録 秋所會始録

(五面よりつゞく)
 嬢教育の爲に、三年前一家を擧げて上京、府下大井の閑居に、琴瑟互に相和協力して、恰も寄宿舎の舎監の如き生活に入りたる同君同家の一切に就いては、記者よりは寧ろ村の諸君が熟知する處なるが故に、こゝに其紹介の筆は省くが、唯同君については、特に之を録して一般にも示し、後代にも残さざるべからざるは、人としての遠藤二郎君である。同君はもと三十有年前、記者等と共に安部井春蔭翁門下以文會同人として研鑽大に努め、後大口鯛二師に教へをうけ、大正七年の勅題詠進には、見事豫選の榮冠をいたゞき、前披講の光榮に浴したのである。之れ我村に於ては空前、我縣下に於ては三人目の榮譽者だつたと思ふ。其後大正十年、斯界の權威井上通泰博士の南天莊に入門し、越えて十二年二級に、昭和元年一級に進み、現に同門の梧桐會幹事として其雅務に當り、傍ら師に親炙して、萬葉集及風土記の講筵に連なり、作歌の指導をうくる等只管斯道に精進し、其存在は漸次中央に認めら

れんとしつゝある。本紙毎其歌風一般を窺知する事が出来る。又一方諸息嬢は、それらの學校に入りて勉學中であるが、必ずや同君夫妻の徹底せる教養によつて、成すある人材となつて一家を興すは勿論、國家に役立つ事と思はれる。記者は偏に君が斯道に成せらるゝ事と、息嬢も早く郷里に歸還して、再び遠藤様として村人指導の任にあたらん事を、希望して止まない次第である。

十年前の三少年中、唯りしは記者一人のみ。當時親に心配をかけ、人様を騒がした罪を償はんが爲に、依然當年の念願を捨てず、之を現代の國狀に適應して實現せんものと、一家を擧げて努力はして居るが、果して何事かなし得るものぞ。轉た望羊の嘆に堪へぬこゝに擱筆するに當つて當年仙臺迄御苦勞を願ひ、御配慮を煩はした、故安齋直吉翁の靈と、遠藤貞藏大人に對して、深甚な感謝の意を表するものである。

(十五日稿)

村役場の新陣容

村長助役の改選

安齋村長満期引退後、村議諸氏には、慎重審議其後任詮考中であつたが、全員一致助役原徳左工門氏を昇格推薦し、其後任には市川清治氏を推し、満期となつ

治蹟の擧がる事と思はれるた、此上は全村一致協力して村運進展の爲に努力する様にしたものである。記者の如きも、遙かに之が應援には微力を致したいと思

つて居る。

村井知事來村

六月十四日村井知事一行は養蠶業視察の爲に來村し南杉田本田佐市氏方を中心として、全村の斯業狀態を調査視察の上、同日歸郷した。

杉田村公私團體職員錄

- ◎村社社掌及總代人
 △八幡神社 社掌高橋直記
 安齋 榮 鈴木 寅吉
 遠藤 貞吉 鈴木 長市
 △布留杉神社 社掌 同前
 大内喜平太 田中 藏吉
 柴田 清藏 渡邊紋三郎
 國分 利八 石川 庄次
 岩本忠之介
 △館野神社 社掌 同前
 渡邊卯平治 金澤 平作
 佐藤 大助
- ◎消防組
 組頭 市川 清治
 小頭 (區順)
 柴田 四郎 石川 清吾
 鈴木 卯吉 菅野 末藏
 渡邊 倉治 本多 善春
 佐藤 直記 大津 孝一
- (次下次號)

杉田村出身住所氏名錄

- 東京府下町田町本町田 安齋 直江
 同大井町出石五一二二 遠藤 二郎
 同府下碑衾町碑文谷一八四 渡邊 要
 同大崎町桐ヶ谷五〇一 吉川善三郎
 東京府町區中六番町三 桑野佐源太
 愛知縣立大府農商學校 安田 儀作
 東京府下吉祥寺二七四五 安齋 義一
 石城郡平町 安齋 勝美
- 特に本村出身者諸氏に御住所の御通知を乞ふ 大内 民彦

問題なるが故に、勢ひ國民教育の徹底、教育制度の改革を叫ぶざるを得なくなつて來るのである。我田引水

矢野 恒太序 大内民惠著 服部宇之吉 教育制度改革概論 (四六版二二頁 定價五十錢 郵税六錢)

行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理と實際と、歴史と實驗とから新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士の賛同枚舉に達せられず。されど未だ一人の抗議者も現はれず。

次第で御座います。高坂では課長様を實の親の様に御慕ひして居りました。それに拘はらず一朝一夕に課長様の膝元を離れ遠くへ歸地を目標に立

ます。課長様に申し上げる事は山々ありましたが悪筆故これにて失禮致します。御笑御下さいます。さようなら、

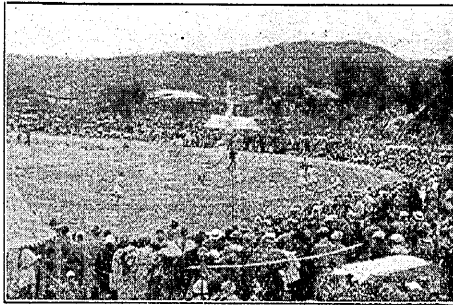
天人會 去る十八日幸ひ土曜日に當りて、午後五時半より

金壹圓五拾錢也松本 大 本紙購讀者芳名 自七年六月一年間 菊野長敏 全 崎田直昌

總親和總努力 磐炭大運動會

桂冠は内郷に

磐炭健康保險組合主催で去る五月二十五日午前八時から金坂グラウンドに於て大運動會が開かれた。晴れたり曇つたりの天気は却つて絶好の運動會日和だつた。選手入場式、優勝旗返還の頃から烈風さへ加はつて所所砂塵を巻き起し濱崎會長



會動運炭磐

が開會の挨拶に立つて弓場テニスコート柔剣道場を近く實現さし度きこと目下工事中であるが東北一を誇る大プールもこの夏は諸君におめ見えするだらう等運動部の抱負を述べ且勝負は正堂々とするべしだこスポーツマンシップを説く頃は

川又工藤 兩選手の出場

オリンピック南興羽豫選大會に出場して、選手権を獲得したる、五種の川又、五千の工藤兩君は、五月二十九日長堀監督に引率せられて神宮の豫選競技に出場川又君は開盤に於ける僅かの差で二位となり、工藤君は入賞こそせざれ、八着の好成績を挙げ、何れも磐炭の爲に大に氣を吐いて歸山した。

凱旋兵歓迎 磐炭役付會六月例會は、十六日午前九時より昭和館に開催、十數項にわたつて濱崎課長並石橋主任より報告あり、種々協議を遂げ、引きつゞき十一日より會社關係の凱旋兵歓迎會に移り課長の歓迎の辭、井砂代表

日立に遠征

昨秋の三大炭礦競技並びに

功勞者表彰 セメンテーションによる綴堅坑の排水設備完成したるを以て、六月十五日礦業所に於て、其功勞者たる鶴田顧問宮内技師以下三十五名に對し、銀盃及賞金授與式を舉行し、可重なる晝餐の饗應ありたる由。

結核トラホーム豫防標語入賞發表

日光の下に結核なし うつらぬ用心か、らの注意

野木村長 去月十五日綴劇場に於ける凱旋兵歓迎會の席上突然腦溢血の爲に卒倒したる野木村長は、只管静養の結果經果頗る良好にむかひつゝある由。偏に其全快再起を希望する次第である。

功勞者表彰

野木村長 去月十五日綴劇場に於ける凱旋兵歓迎會の席上突然腦溢血の爲に卒倒したる野木村長は、只管静養の結果經果頗る良好にむかひつゝある由。偏に其全快再起を希望する次第である。

野木村長

野木村長 去月十五日綴劇場に於ける凱旋兵歓迎會の席上突然腦溢血の爲に卒倒したる野木村長は、只管静養の結果經果頗る良好にむかひつゝある由。偏に其全快再起を希望する次第である。

功勞者表彰

功勞者表彰 セメンテーションによる綴堅坑の排水設備完成したるを以て、六月十五日礦業所に於て、其功勞者たる鶴田顧問宮内技師以下三十五名に對し、銀盃及賞金授與式を舉行し、可重なる晝餐の饗應ありたる由。

功勞者表彰

功勞者表彰 セメンテーションによる綴堅坑の排水設備完成したるを以て、六月十五日礦業所に於て、其功勞者たる鶴田顧問宮内技師以下三十五名に對し、銀盃及賞金授與式を舉行し、可重なる晝餐の饗應ありたる由。

功勞者表彰

功勞者表彰 セメンテーションによる綴堅坑の排水設備完成したるを以て、六月十五日礦業所に於て、其功勞者たる鶴田顧問宮内技師以下三十五名に對し、銀盃及賞金授與式を舉行し、可重なる晝餐の饗應ありたる由。

功勞者表彰

功勞者表彰 セメンテーションによる綴堅坑の排水設備完成したるを以て、六月十五日礦業所に於て、其功勞者たる鶴田顧問宮内技師以下三十五名に對し、銀盃及賞金授與式を舉行し、可重なる晝餐の饗應ありたる由。

功勞者表彰

功勞者表彰 セメンテーションによる綴堅坑の排水設備完成したるを以て、六月十五日礦業所に於て、其功勞者たる鶴田顧問宮内技師以下三十五名に對し、銀盃及賞金授與式を舉行し、可重なる晝餐の饗應ありたる由。

功勞者表彰

功勞者表彰 セメンテーションによる綴堅坑の排水設備完成したるを以て、六月十五日礦業所に於て、其功勞者たる鶴田顧問宮内技師以下三十五名に對し、銀盃及賞金授與式を舉行し、可重なる晝餐の饗應ありたる由。

功勞者表彰

功勞者表彰 セメンテーションによる綴堅坑の排水設備完成したるを以て、六月十五日礦業所に於て、其功勞者たる鶴田顧問宮内技師以下三十五名に對し、銀盃及賞金授與式を舉行し、可重なる晝餐の饗應ありたる由。

功勞者表彰

功勞者表彰 セメンテーションによる綴堅坑の排水設備完成したるを以て、六月十五日礦業所に於て、其功勞者たる鶴田顧問宮内技師以下三十五名に對し、銀盃及賞金授與式を舉行し、可重なる晝餐の饗應ありたる由。

功勞者表彰

功勞者表彰 セメンテーションによる綴堅坑の排水設備完成したるを以て、六月十五日礦業所に於て、其功勞者たる鶴田顧問宮内技師以下三十五名に對し、銀盃及賞金授與式を舉行し、可重なる晝餐の饗應ありたる由。

本村四校 聯合修學旅行

兒童後援會の美舉

村内四小學校生徒六百九十五名は、三十四名の職員二十三名の父兄附添、金澤助役外石橋、生田、馬目、宮本、猪狩の五學務委員、學校側より校醫島田氏看護婦一名、會社側より福島醫師看護婦二名附添ひ都合七百六十三名は去る六月四日午前四時特別仕立列車九輛にて綴驛發、八時五分上野驛着、四十人乗十八台の遊覽自動車に分乘して宮城遙拜、明治神宮靖國神社參拜遊就館上野動物園の觀覽を終へて同日午後三時四十分上野發七時四十五分綴驛着歸郷した。此日東京も生憎雨天にて宮城前整列遙拜出來なかつたさうである。磐炭の東京本社から幹部を上野精養軒に招待し勞を痛らつたさうであるが生徒各自に送鉛筆一打雜記帳東京名所繪葉書一組宛寄贈された然もなほ特筆すべきは本村兒童教育後援會から貧困兒童三十五名に一圓五十錢宛贈與し此の一行に加はらしめたことは、此の不況の折柄稱讚置く能はざる所であ

我村の愛國機献金

過般知事以下十名主唱者となり、福島民報社外十一新聞社後援の下に、愛國機福島號献納趣意書を配布して三ヶ月、其の間一時募集金額八萬圓の三分一にも満たざりし爲憂慮されたるも關係者各位の献身的努力と一般人士の愛國的精神の下に、最近傳ふる所によれば殆んど豫定額に滿たんとし、爲縣郡の爲、眞に喜びに堪えない。

我が内郷村に於ても各方面に於て極力盡力した、左に掲ぐるだけの成績を上げることを得た。

白水	八六、九〇〇
宮	二九七、一五〇
内町	一五六、二〇〇
上綴	一四九、〇〇〇
下綴	三二、五五〇
高坂	六八、五〇〇
御殿	一一、三〇〇
御臺	七五、三〇〇
御臺境	二二、〇〇〇
小島	一一、九〇〇

磐炭電氣講習會

磐炭では時節柄不況打開策として作業の機械化を計り、あるが兎角就業員中機械に關しての智識不足のため其の對策につき主腦部で研究中の處々本月初旬より就業員中八十余名を指名し長久保、土井兩技手指導の下に月二回電氣に關する講習を試みてゐるが時機に適した催はしである。

講習期間は是を二期に配當し前期に於ては基礎的智識を教授し後期は應用に關する實際的講習に入るもの如く、休業日三時間の講習で相當の成績を上げ可く意氣込んでゐる。尙必要に應じ名士の講演、職員の仕事に關する新研究、將來の計畫、土木測量、選炭穿孔發破通風軌道採掘機械等に關して隨時補足的教育も施すことになつてゐる。

道を學ぶの要は基本を知るにあり本まは何ぞ、當人職分の當に屬すべき所の事なり。伊藤東涯

九州視察記

南波 正

内郷村議九州視察と云ふ振れ込みで同勢七人五月一日出發博多に直行九州と云つても北方の一部筑豊地方の炭礦地町村視察の目的で範圍も狭く且日程の都合上早廻り式の旅だつたが兎も九州迄の旅行で種々の空氣に觸れた事が多少見聞を廣くした事になる、五月三日から各役場を訪問する毎に何れも其建物の立派なのに感服した。施政及事務に關する資料は茲に略し只私の感した事一二を述べる。先づ訪問した穂波村は人口本邦第一位の村長は頗る人格者で且敬神の念に厚く従吏も之に倣ひ朝出勤先づ第一に御眞影次に神棚に禮拜然る後村長に挨拶する事になつて居る是には私共も大に感じさせられた、此一事で此役場の成績も知られる様な氣がする。

筑豊地方は炭礦地と云ふ点に於て當地方と同じだが道路及河川の築修頗る完備して居る。要するに町村經濟の富裕と交通の便を以て地方の發展を計る目的に依るも特別戸數割の如き一戸平均十八圓も負擔し得る町村民の富は那邊より生ずるか兎も角馬にしろ耕作用馬にして見事な馬許りに付く。後藤寺町伊田町地方は相當古い炭礦町で何處も同じ炭礦不況の聲はあるがそれでも町の擴張土木仕事を盛にやつてる今後益々發展の空氣が漲つてゐる尤も後藤寺町は納稅組合長が百人も居て納稅の整理に當つて居る伊田町長は縣會議長で富家全町の六割は其人の所有だ、三ヶ所許りの視察を了へ尙私には炭礦の見學も兼ねてゐるので一同に別れ、孤獨の旅を行なす。

餘録

記者は三四年前までは東京で用を達す時には時間の經濟と迷惑をかける事を慮つて親戚故郷には絶對に宿る事をさけて一泊四五圓の旅宿に陣取つたものであるがそれでは餘り勿体ないので圓ホテに變更し食事は簡易食堂で朝食十錢費晩食各十五錢見當ですます事にしたのであつたが此度の東京から社會奉仕の資に充つる爲めには其も切りつめて親戚故郷を片端から食事はわきに宿り廻る事にしたので食費電車賃を合せて一日一圓以内で全市を飛び廻る事が出来た。私も投宿希望を申込み及び茲に清財二圓が豫約された△但記者は其を感謝し申込殺到當分順番は來るまいと答へ阿々大笑晩餐を東洋軒で御馳走に預り結局現金で十餘圓の節約を得た譯であつた。

麥苗吟社 種の名を忘れて隅へ蒔きにけり 立憩ひ立憩ひつ、種を蒔く 志賀野壽司 用足しに來て桑摘を手傳へり 江連、半仙 花大根田に捨てられしよ、に咲く 松浦、十方 つばくらめ水を叩きて 飛びにけり 桑摘みの大きな籠を背負ふ行く 高萩、六王 爐寒て少し廣くも思はる 皆川、二樓 揚舟の上にも目刺さされあり 關本、雲浦 見て居れば柱の穴に蜂の入り 原ひてを 支那皿の給は牡丹や目刺焼く 高木、撫山 飛行機に乗るべく日傘た、みけり 縁陰に豚まん、の商へる、 飛田、目録

内郷村報の 六大使命

- 一、政黨派を超越して、村力充實主義を標榜す。
- 二、村内公私各機關の活動状況を報導し併せて其協調を計り、總親和總努力の實現を期す。
- 三、本村共済事業の徹底を期す。
- 四、村内の善事美行を表彰し、且之を獎勵す。
- 五、本村と本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
- 六、尙餘力を以て、國民善導に當る。

内郷村報

一月一回 一月一回 一月一回

國民の傍聴者に對して、かの面、それにつらなる諸公運の首を一々實見した時に、蘇峯學人の所謂善内閣なる哉の感なき

海事件の經過、滿洲方面の情況、不祥事件の説明及留任の理由を述べ、岡田海相も亦上海及滿洲に於ける海

本紙發行は大内一家の事業にし、其の對峙に子孫に對する遺言を兼ねるものなり。